

竹川病院 理学療法士 間野旭

功 績	傷病者を発見し、一時救命処置を行い、その場で救命に至った功績。
推 薦 者	リハビリテーション部 可児利明
推 薦 理 由	回復期リハビリテーション病棟勤務の理学療法士は 毎日の臨床場面で心肺停止状態の患者さんの対応をすることはほとんどありません。一時救命措置の講習は院内で 毎年行われていますが、実践でできるレベルまでトレーニングを積んでいるセラピストは少ないのかもしれませんが。オリンピックの現場での実学のトレーニングが身を結び 躊躇することなく実践できたことは日ごろからの鍛錬の成果だと思います。 以上の功績から 理事長賞にふさわしいと考え推薦させていただきます。

内 容

4月に妻と一緒に息子を保育園に預けに行き、その帰りに妻が「倒れている人がいる!」と傷病者に気が付きました。すぐに駆け寄り、状況を確認したところ意識はなく、呼吸が止まっていたので即座に胸骨圧迫を開始しました。救急処置1分で傷病者の意識と呼吸が戻り、5分後に救急車が到着したので救急救命士に引き継ぎました。傷病者は50歳代男性で救急搬送後に入院されました。程なくして退院し後遺症もなく社会復帰されたとお聞きしております。

これまで東京オリンピックのメディカルサポートに向けての外部活動として、東京都理学療法士協会スポーツ局が主催する研修会やスポーツの現場活動に数多く参加してきました。スポーツ現場でも心肺停止してしまう選手も稀にいます。そのため研修会で何度も実践的な実技を繰り返したことで一人の命を繋ぐことができましたと思います。このような状況に遭遇すると思いませんでしたが、傷病者を発見したときに自然に身体が動いたのは、身につくまで何度も繰り返し訓練したことが救命に至ったと思います。

この功績をたたえ 消防協力者表彰式にてさいたま市緑消防署長から表彰状をいただきました。